

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3893600043
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム早雲
所在地	愛媛県喜多郡内子町大瀬中央5 6 6 2 番 2
自己評価作成日	平成25年9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

内子町大瀬の、のどかな自然の中木造建築の建物がひととき引き立ちます。ご近所の皆様に暖かく見守って頂きながら地域に根差すグループホームを目指しています。毎朝元気にリハビリ体操を行っています。日常生活において、掃除、調理や洗濯など、それぞれが得意とする事に対し役割を持っていたり、自然に本人の意欲を引き出しています。今年は、職員と入所者の入れ代わりや認知等の進行により思うように支援できないことも多かったが地域との結び付きが深まり中野サロンの方々には心よく協力してもらえた。行事の時の家族様の踊りは利用者の方々の皆様にとって楽しみの1つとなりました。利用者様自身から新人の職員に対して生活をしていく上でのアピールがありました。また、利用者様がその月にあった事を忘れないように毎月利用者様と一緒に壁新聞を作成しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の方達が空き地に作っておられる花壇を見に行かれる等、日頃から散歩を楽しまれている。地域向けの事業所便り「青葉～早雲号～」を継続して発行されており、事業所の取り組みを地域の方々に知ってもらえるよう取り組まれている。地区の小学校は、運動会や学芸会時に案内をくださり、利用者がゆっくり見学できるように、席やお茶を用意してくださっている。地域サロンの方達は、年末のもちつきは、利用者も一緒に楽しくできるよう用意してくれている。事業所で行う観月祭に地域の方達も招き、一緒に食事しながら交流されており、日頃の様子を撮ったビデオ等も流して、みなにみていただいた。毎年、系列グループホームと合同で「夕涼み会」を行っておられたが、今年度は、事業所独自で夕方から開催された。4件のご家族と近所の方が参加され、利用者と一緒に食事されたり、花火やスイカ割り等を楽しまれた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目		取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム早雲

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森本あけみ

評価完了日

H25年 9月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域理念を作り、地域との交流をはかるため、行事を計画実行し、職員も理念を理解し実践につなげている。地域の行事(祭り)などに参加し、学校の運動会などを通し地域の一員として過ごす事が出来ている。	
			(外部評価) 事業所理念である「あいさつ 笑顔 尊敬 認め合う」は、職員が何時でも目に入るようにと居間に掲示されていた。又、地域に根差した事業所作りに向けて「地域 家族 入居者が理解し合って信頼できる関係を築く」と地域理念を作っておられ、職員で「地域やご近所と交流し楽しい行事を実行する」と目標を立て、理念の実践に向け具体的に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の情報を知るため回覧板を回してもらったり、地域行事の農業祭や秋祭りに参加をしている。また、ホームで計画した行事にご近所の方が参加して下さいたり、向かいのお子さんが時々遊びに来てくださる。地域のサロンの方たちとも芋もち作りを行いました。大瀬母子会の見学交流の受け入れなど地域との繋がりが近くなってきた。	
			(外部評価) 地域の方達が空き地に作っておられる花壇を見に行かれる等、日頃から散歩を楽しまれている。地域向けの事業所便り「青葉～早雲号～」を継続して発行されており、事業所の取り組みを地域の方達に知ってもらえるよう取り組まれている。地区の小学校は、運動会や学芸会時に案内をくださり、利用者がゆっくり見学できるように、席やお茶を用意してくださっている。地域サロンの方達は、年末のもちつきは、利用者も一緒に楽しくできるよう用意してくれている。事業所で行う観月祭に地域の方達も招き、一緒に食事しながら交流されており、日頃の様子を撮ったビデオ等も流して、みなにみていただいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の講演会を地域のグループホームの方たちと毎年行っており地域の方も参加して頂きました。また、大瀬中学校の福祉体験の受け入れもしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に運営推進会議を行い、職員やご家族、自治会長や区長ご近所の方に参加して頂き、行事や入所者の情報を伝え意見などをきいている。また、自己評価や外部評価を行う事を伝え改善策なども報告して意見を聞いている。観月会を行い一緒に食事を食べたりもしています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は、隣接する系列のグループホームと合同で開催されている。会議には、自治会長、区長、民生委員、近隣住民が参加されており、利用者の様子や行事の報告、外部評価を受け今後の取組み等も発表して意見交換されている。参加者から、「認知症にならないための方法を知りたい」と質問があったことをきっかけに、認知症について知っていただけるよう、事業所より説明等されたこともある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加していただき、情報を共有している。事故報告書の提出やケアプランの提出をし、取組みを伝えている。また、町内のグループホームの管理者が会合を行っており、内子町グループホーム連絡会主催の認知症の研修会を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>11月の運営推進会議時には、地域包括支援センターの方に講師をお願いして「感染症」について、参加者と勉強することを計画されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束が何故いけないのか研修に参加したり、全員での勉強会を行い、身体拘束をしない、日中は玄関に鍵をかけたケアを行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ケアカンファレンス時、事例によっては、身体拘束について職員で理解を深めながら話し合い、支援を検討するようなこともある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			社内研修にて虐待について勉強し、管理者、職員は理解を深めた。それぞれの行動に注意をし、気になる事があると声をかけあっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価)	
			利用している人があり、どのような方が制度を利用しているか理解している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入居希望時に見学していただき、ホームを理解してもらい、重要事項の説明をしている。入居契約時にも説明をし納得していただいてから契約をしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族の面会時や毎月の新聞で職員から声かけをし生活の様子が分かるように伝えている。利用者様にも希望等ないか確認をしている。運営推進会議に家族の参加があり、話の出来る機会を作っている。3月、5月に家族会を行い昼食と一緒に食べ、8月には夕涼み会を行い職員は家族様と交流をし、気軽に話が出来る関係を築いている。	
			(外部評価)	
			事業所便りには、利用者個々の担当職員からのコメントを付けてご家族に送付されている。利用者の様子の写真や新人職員の写真を載せ、又、行事報告や今後の予定等も載せておられる。毎年、系列グループホームと合同で「夕涼み会」を行っておられたが、今年度は、事業所独自で夕方から開催された。4件のご家族と近所の方が参加され、利用者と一緒に食事されたり、花火やスイカ割り等を楽しまれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者会議にて意見を出す事ができる。行事の企画は部長に確認してもらっており、職員の提案で行事を行うことができる。業務カンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また、ケアカンファレンスでも気軽に意見を話し合える機会を設けている。	
			(外部評価) 事業所には、献立、広報、会計等、5つの委員会があり、職員は何らかの委員に所属して責任を持って活動されている。月ごとに職員が順番で行事を担当する仕組みを作っておられ、職員は、管理者と話し合いながら企画されている。毎月、夜間にミーティングを行っておられ、職員から意見も活発に出されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心を持って働ける様、施設長やホーム長、副ホーム長の役職があり手当が付く。資格手当もあり、向上心を持って働けるよう整備している。近年は職員の補充ができず、6人体制の月が多く大変だったので職員の確保と安心して働ける環境にする必要がある。	
			(外部評価) 南予地域の研修に参加している。また、社内研修では虐待、身体拘束と接遇の研修を行った。救命救急研修にも参加した。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は社内において管理者会議があり、情報の交換、共有している。また、内子町のGH連絡会においても情報交換と共有を行っており、職員間も勉強会を行いサービス向上に結び付けている。	
			(外部評価) 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 利用者様と話す機会をつくり、不安や希望を聞き、職員と利用者様との信頼関係を築いている。	
			(外部評価) 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様と話す機会をつくり、不安や希望を聞き、職員と利用者様との信頼関係を築いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			見学者や入所希望者に対して、何に困っているか、不安なことは何か聞き、ホームについての説明を行っている。入居時には、在宅中の様子を聞き、介護の大変さを理解し、信頼して頂ける様に努めている。また、事前調査と入居時に家族の希望を伺っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			本人と家族の希望を聞き、療養マッサージを利用されている利用者様がおられます。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			利用者様一人ひとりが能力に合った役割を持って生活をしているが認知が進み役割が出来なくなってきている人もおられる。また、お互いに協力したり、利用者様同士で声をかけ合い良い関係が出来る様に、仲に入り支え合う関係が出来ている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			定期的に家族が訪問し、自室にてお話してくつろいで頂いたり、行事に家族と共に参加し、一緒に過ごして頂いています。また、家族の方と一緒に外出される方や家族の協力もあり年2回自宅に外泊される方もおられます。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			家族の協力を得て、本人の行きたい所へ連れて行って頂いたり、自宅への外出等ができています。また、ホームから本人の馴染みの場所への外出も行っています。	
			(外部評価)	
			家に帰りたい気持ちが強い利用者の方で、お宅には、みかん畑があったことを知り、みかん狩りに行くことを考えておられたが、実現につながらなかったこともあり、職員は、利用者の居室から見える場所にみかんの木を植えて差し上げた。利用者は、春に花が咲くことをとても楽しみにされているようだ。地域の農業祭に出かけた際には、利用者の知り合いが声をかけてくれるような場面もあり、利用者はとても喜ばれたようで、事業所に帰ってからも何度もお話をされたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアでテーブルを囲むように座り過ぎて頂いています。気の合った利用者様同士が座ったり、お互いの意見を尊重し理解しあえるよう声かけをしながら支え合うように支援を行っている。また、お互いが体を気遣って声を掛け合ったり、体を擦ってあげてたり、声かけをし手をつなぎあったりされています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去者には他施設に入所された方はいらっしゃらないが、ご葬儀には出席しています。入院中は、家族をフォローするため、職員が洗濯物を取りに行ったり、面会に行ったり支援しました。また、退去後の誕生日におりづると色紙をプレゼントすると、お見舞に行った職員にありがとうと言われた事を職員や入所者の皆さんに伝え、元気になる事を願った。	
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞き、困難な場合には行動から判断している。本人の思いシートを作成し活用出来ている。また、家族様からの情報をえることもでき、介護計画に取り入れることが出来て良かった。 (外部評価) 職員は日々、利用者とかかわりながら利用者のことを知ることに努めておられる。「本人の思いシート」には、利用者の言葉等を集めておられ、利用者によっては、お弁当を持って桜や藤の花、又、お雛様を見に行く支援につながった事例もある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの暮らしを家族や本人から聞き情報を得るようにしている。他のサービスを利用していた場合は、そこから情報を提供して頂いている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの1日の行動や言動をよく観察し、情報を共有したり見守りをしたりしている。ケアカンファレンスで昼夜逆転についても話し合っている。対応困難になっている利用者様の様子と対応方法についてよく話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のケアカンファレンス時にモニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しを行っている。家族の方の訪問時や電話にて介護計画を説明して、要望や意見をお聞きしている。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者個々の担当職員が管理者やケアマネジャーと相談しながら、利用者の出来ること、出来そうなことにもとづき立案し、ケアカンファレンスで話し合い作成されている。利用者個々の担当職員が2ヶ月間モニタリングを行い、3ヶ月ごとの計画の見直しにつなげておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録や経過観察記録等毎日の行動を記録し、申し送りやケアカンファレンス等により情報を共有し、どのようにしたら良いケアが行えるかを考え実践し介護計画の見直しに活かしています。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 神南診療所との医療連携体制があり、医療連携ナースとも連携しているが、サービスの多機能化は特にありません。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大瀬社協や大瀬母子会と交流がある。今後は定期的な訪問をして頂けるようにしたい。地域サロンと交流を行っており、同世代の方との作業を楽しみにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 現在は家族の希望により、神南診療所を全員主治医とされています。眼科は本人のかかりつけ医を継続しており受診支援をしています。また、歯科、皮フ科は協力医を受診しております。療養マッサージを利用されている方もおられます。	
			(外部評価) 月2回かかりつけ医の往診があり、24時間電話で連絡や相談が出来るようになっている。利用者の体調が優れない時には、ご家族に連絡して、職員が受診介助し、必要な場合はご家族に同席をお願いされている。歯科治療が必要な場合は、訪問歯科を利用できるようになっている。他科受診時も、ご家族と相談しながら職員が付き添うこともある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的に医療連携ナースの訪問があり、職員がその都度利用者の様子を報告して指示を受けている。また、電話連絡により相談や指示が受けられ、適切な対応が出来る。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) サマリーなどで情報交換し、入院中や退院時の情報をとっています。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にグループホームにおいて看取りまで出来ることを説明して重度化、終末期の指針も説明し、家族の希望をその都度聞き、支援できるようにしています。利用者一人ひとりに思いや希望を聞き、本人の意向を話してくれた入所者様もいました。	今後の利用者の重度化を見据えて、機会をみながらご家族と終末期のあり方について、話し合うような機会も作ってはどうか。利用者やご家族の希望をもとにして、チームで支援していきけるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 利用契約時に、事業所で看取り支援が可能であることをご家族に伝え、最期をどこで迎えるかは選択出来ることを説明されている。終末期のあり方について、利用者「どう思ってる」と聞いてみると、「鼻から管を入れられるのは嫌」と答えられたこともある。事業所では、「後で後悔しない介護をしたい」と考えておられ、併設の系列グループホームで看取りを支援された際には、職員も様子をみせていただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			最近急変される方もなく落ち着いておられます。急変時には冷静に対応できている。二名の職員が救命講習を行った。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			定期的に近隣住民と共に訓練を行っており、参加者全員で反省会を行い、災害対策に対し協力をしていただける関係を築いている。また、地震からの火災を想定しての避難訓練、地震体験車や消火訓練を入所者様と共に行った。新人職員もすぐに避難訓練を行えた。	
			(外部評価)	
			年2回、消防署や近隣の方達の協力を得て、併設の系列グループホームと合同で避難訓練を実施されている。近隣の方の役割等を決めておられ、災害時にも協力していただけるようになっている。拡声器を玄関に用意しておられ、いざという時にはサイレンを鳴らして、近所の方達の協力を得るようになっている。今後は、いざという時のためにも、備蓄等についても職員で検討されてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			一人ひとりのプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないように言葉使いにも気を付け対応している。居室にて一人で過ごす事が出来て一人の時間が作れる。プライバシーを守っている。	
			(外部評価)	
			利用者のプライドを傷つけないような言葉かけに気を付けておられる。排泄誘導時には、利用者の耳元で小声で声をかけておられた。管理者は、部屋が分からなくなっている利用者へ、さりげなく「こちらに座りませんか」と声をかけている様子がみられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日常生活の中で、本人の思いや希望を職員に気軽に話して頂ける様声かけし接していくよう努め、本人の希望等にそえるようつとめています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの一日のペースを把握し、できる事やしてみたい事に声かけし支援をしている。利用者様からあまり希望がなくなったが希望があることは支援出来るようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が着たい服を自由に選び着て頂いている。出張美容を利用しカット、パーマ、顔そりをしていただき、化粧を希望される方には支援している。衣類の調整は本人の希望にそって行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好きな食べ物、嫌いな食べ物を知り、色どりなど盛り付けにも工夫を凝らし食欲が出る様努めている。また、野菜切り、味付けにも参加して頂いているが次第に出来なくなってきた。洗い物や食器拭きにも声かけをし利用者の皆さんが協力して手伝って頂いている。ホームで取れたゴーヤを利用して調理する事もある。 (外部評価) 職員が献立を考えて、業者に必要な食材を配達してもらうようになっている。菜園で採れた野菜が食卓に並ぶこともある。夏に収穫したゴーヤで佃煮を作ったこともあり、利用者にたいへん喜ばれた。訪問調査時には、畳の間で食事する男性利用者が、ハンバーグを食べながら、調理を担当された男性職員に「おいしいよ」と声をかけておられた。ご家族からいただいた柿をデザートにされており、食べやすいように一人ひとりに合わせて切ってあった。職員は、「これも食べてみてください」と利用者の箸がすすむように声をかけておられた。足台に足を置き、姿勢等にも気を付けて食事できるよう支援されている。利用者は、椅子に座って野菜の皮むきやもやしの根切り等を、職員と一緒にすることも。職員は、利用者の食べる量に合わせ、お茶碗の大きさや盛り付け等にも気を付けておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量を理解しおかゆ、刻み食、ミキサー食などそれぞれの利用者様にあった盛り付けを行ったり摂取量の記録や好みの水分を理解し必要量が取れるように支援しています。また、病気にあった味付けが行える様にしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事後声掛けし口腔内の清潔保持に努めています。また、1人で出来ない方に対しては職員が声掛けや誘導等の介助を行い、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや行動を知り、それぞれの方に合った排泄支援を行っています。夜間の睡眠確保のためパットやリハビリパンツの種類を変えて一人ひとりに合った対応をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄の状況の把握に努め、昼間はなるべくトイレで排泄できるよう支援にされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、排便の回数を記録し便秘がみられる利用者には水分を多めに摂って頂いたり、運動の声かけを行っています。強い便秘のみられる利用者には主治医と相談し、薬を処方して頂き対応しています。食事にも工夫し繊維質のものを摂って頂ける様にしています。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようにしているが、行事等がある場合は2日～3日で入浴できるように支援しています。また、希望を聞きシャワー浴にされる方もあります。(夏場) 6人体制の時は午前中に入浴を行った。	
			(外部評価) 午前中は、散歩等に出かけることが多いため、午後からが入浴時間になっている。現在は、1日おきに入浴できるよう支援されており、職員も一緒に歌を歌ったりおしゃべりして、利用者がゆっくり入浴できるように支援されている。利用者全員が湯船で温まれるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でもお部屋で休んでもらうようにしています。夜間は、一人ひとりのリズムで休んでもらう不眠時には話をしたり飲み物を進めるなど安心してもらえるよう対応しています。眠剤を利用される方が増えてきた。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬への支援をしている。使用している薬が何の病気の薬か理解している。服薬表の整備を行い、副作用などの理解をするよう努力している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが出来る事を把握し、それぞれに合った支援をし役割を担ってもらっている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の体調に合わせてホームの周囲を散歩したり日光浴ができるように支援しています。また、月に1~2度は内子、大洲などへ買い物に出かけ気分転換を図ってもらっている。地域行事(運動会・保育所訪問)等にも出かけて地域の方々と触れ合っている。早雲独自の新聞や壁新聞にて利用者様一人ひとりの様子を伝えることが出来るようになった。弁当を作り外出したり、家族とイチゴがりにも行けた。 (外部評価) 散歩しながら菜園の様子を見に行かれたり、収穫する等、お天気等もみながら、できるだけ外に出られるように取り組まれている。月に1~2回は、地元のスーパー等買い物に出かけておられる。10月には、お弁当を作って大洲フラワーパークへ出かけ、利用者はとても喜ばれたようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の理解の上で少額のお金を自分で管理している人もいる。買い物外出時には、自分で支払いができるように援助している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取次ぎや親族の方から来た手紙への返事の手紙を書いていただけよう声かけ等支援しています。携帯電話を所持している方もいらっしゃいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間において自由に行動して頂いており、冷暖房を必要に応じて使用し快適にホーム内で過ごして頂いています。季節ごとの花を飾ったり、利用者の方と一緒に季節感のあるちぎり絵を作成してフロア内に展示しています。裏庭や畑ではゴーヤや花を作りデッキに出て見たり窓から見る事ができた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、利用者はテーブル席で職員と一緒にタオル体操を行っておられた。居間の壁には利用者職員が作った「貼り絵」や「壁新聞」が掲示されており、干支の置物やお花を飾っておられた。夏には、デッキにゴーヤのグリーンカーテンを作られた。日陰を作ってデッキで過ごしやすくなったことで、利用者がゴーヤの成長を楽しみに見に出られる等、デッキで過ごすことも多かったようだ。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>畳で過ごして頂いたり、台所に誘ったり、共用空間に居ながら少しはなれる事ができるように対応しています。気の合う人がとなりに来るような配慮をしています。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が馴染みのある物を持ち込んでいただけるようにしている。住み慣れた部屋のようにして居心地のいい居室になるように、見慣れた物をかざり生活感があるように工夫しています。また、フロアの椅子で対応できない方には家族の方にお願いして自宅で使用していた椅子を持ってきて頂きました。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各居室の窓からは、外の自然が見えるようになっており、季節が感じられるようになっている。近くに住んでいるご家族は、シーツ交換や洗濯をご家族が行っておられる。観葉植物がお好きで居室に植物を置き、水やりして育てておられる方もいる。ご家族の写真を飾っておられる方やご自宅から椅子を持ち込んでいる方もみられた。居室の入口には、利用者の目線の高さに表札を掛けておられるが、居室が分からなくなる方には、牛乳パックを使って立体的な表札を手作りして、離れた場所からでもご本人が分かりやすいようにされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりが自分の部屋がわかる様に名前を出入り口に貼ったり、トイレがわかる様に表示したり、一人でも移動、行動できるように工夫している。建物内はバリアフリーになっている。</p>	